

四国こどもとおとなの医療センター
循環器内科・統括診療部長

竹谷善雄氏

香川の医療最前線



がん・脳血管疾患と並ぶ日本人の代表的死因である心臓疾患。中でも心筋梗塞や狭心症は、糖尿病、脂質異常症、高血圧などで動脈硬化が進むことで発症し、これに喫煙や体質などの要因が加わると、さらに起きやすくなるとされる。動脈硬化が原因の心臓疾患やその治療法について、四国こどもとおとなの医療センター循環器内科の竹谷善雄統括診療部長に聞いた。

供給されなくなる。時間経過が大事で、比較的ゆっくり進行するのが労作性狭心症。怖いのは、急激な進行

心筋梗塞・狭心症

AI導入し最適療法判断

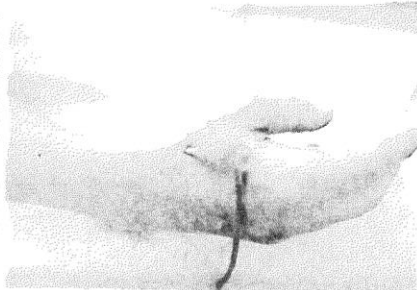
胸痛我慢せず早期受診を

により血栓で急に血管が詰まる心筋梗塞。心筋梗塞では心臓の筋肉が壊死して、最悪の場合心臓麻痺を引き起こす。

うな痛みだが、数分以内に治まることが多い。負荷がかかると痛むが、休むと治まることも多いので、病院を受診せずに済ませる人も

カテーテル治療とは。血管内に細い管を挿入し、金網状のステントを病変部に留置する治療法だ

手の親指のつけ根部分から挿入して行うカテーテル治療。術後の患者負担が小さい



実は動脈硬化は足の血管にもよく起こる。歩行時に痛みがある場合、整形外科を受診することが多いが、骨や神経に異常がない場合、動脈硬化が発見されることがある。カテーテル治療で劇的に改善することがあるので、一度受診してみたい。

動脈硬化で他に注意点は。歩行時に痛みがある場合、整形外科を受診することが多いが、骨や神経に異常がない場合、動脈硬化が発見されることがある。カテーテル治療で劇的に改善することがあるので、一度受診してみたい。

たけに・よしお 1995年徳島大医学部卒。徳島健生病院、湘南鎌倉総合病院、徳島大付属病院を経て2023年9月から現職。日本内科学会認定医、日本循環器学会専門医、日本心臓血管インターベンション治療学会専門医。徳島県出身。58歳。

らの挿入が多かったが、今は術後の患者負担が小さい手首からが主流になりつつある。当院ではさらに進んで、手の親指のつけ根から挿入している。

■四国こどもとおとなの医療センター 循環器内科
年間のカテーテル治療件数は150~200件、うち3分の1程度は心筋梗塞。常勤医は5人在籍しており、365日24時間対応が可能。
所在地：善通寺市仙遊町2丁目1の1
電話：0877(62)1000
<https://shikoku-mc.hosp.go.jp/>